同窓会報
南秀
編　集　一般社団法人 南秀同窓会
発行人　下地信輔
制　作　花View出版
TEL 74-3881

# 奨学金給付など継続
# 宮高は2029年に創立百周年

一般社団法人 南秀同窓会
会長　下地　信輔（27期）

二〇二五年五月に関東南秀同窓会が創立七十周年の式典を開催しました。一九五五（昭和三十）年二月十五日の新年会の席でこれまであった「南秀同窓の集い」を「南秀同窓会関東支部」として発足し一九八六（昭和六十一）年「関東南秀同窓会」へ。

そして関東から遅れること二年余の一九五七年の十月頃、当時琉球政府立法院議長として活躍していた宮中全卒業生の恩師である与儀達敏氏を中心に宮中一期から三期卒の人達が崇元寺の中にあった琉米文化会館において設立総会が開催され「在沖南秀同窓会」が発足。その後一九九三（平成五）年に関東にならい「南秀同窓会沖縄支部」として再編しました。その後二〇〇九（平成二十一）年に「沖縄南秀同窓会」として現在にいたります。

ここで宮古の南秀同窓会はいつできたのかという疑問に突き当たりました。事務局の資料の中には関東や沖縄の創立五十周年の記念誌はあれど宮古の五十周年記念誌は見当たりません。そんな中、沖縄南秀同窓会の定期総会の資料のなかに一九五三（昭和二十八）年十一月に関東南秀同窓の集い発足、同時に南秀同窓会設立の記事が。ここから先は私の勝手な憶測ですが、当時関東にいた宮中卒業生が故郷を偲んで集まり南秀同窓会を立ち上げる、しかし学校のある宮古島に同窓会がないのはおかしい、ならば本土にいる我々は南秀同窓会関東支部と名乗り、宮古島にすむ卒業生のみなさんに南秀同窓会を名乗ってもらおうと、いうことで南秀同窓会は一九五三年（昭和二十八年）十一月に設立したことになりました。と、事実を知っている方がいればぜひご一報ください。

さて、このように歴史のある南秀同窓会ですが、私たち二十七期生卒業時には家政科九十名、商業科九十名、普通科三百十五名、それに定時制六十五名。合わせて五百六十名の卒業生がいたわけですがあれから五十年令和七年度七十七期の卒業生は普通科百五十九名、文理探究科七十五名合わせて二百三十四名、五十年で半減しています。少子高齢化が進む中、本会の運営も段々と厳しくなっています。

南秀同窓会の目的は、「会員相互の親睦をはかり、母校と郷土の発展に寄与すること及び後輩の教育振興を目的とする」と定款に謳われています。その目的を達成するため、毎年新年度がはじまると六月に「奨学金給付事業」の受給生募集、七月選考会、八月奨学金給付式、そして十一月には会員親睦を目的に「卒業五十年を祝う会」を開催します。今年度は私の同期である二十七期と定時制十九期の皆様をお招きしてお祝いをする予定です。そして年明けて二月には「語り継ぐ南秀魂」講演会を開催します。今年の二月の講演会では沖縄南秀同窓会から中山勲氏（宮高九期、元県教育委員会委員長、医師）により全校生徒に向け講演しました。

一九二九（昭和四）年三月に開校したわが母校は二〇二九（令和十一）年に創立百周年を迎えます。一世紀にわたる母校の伝統を受け継ぎ次の世代への架け橋となる南秀同窓会でありたいと願い私の挨拶とします。

校章

# 教育活動のさらなる充実に力

宮古高等学校　校長
松原　芳和

南秀同窓会・会報「南秀」（令和7年度上半期号）の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。令和5年度より第30代校長として勤務しております、本校36期生の松原芳和と申します。

南秀同窓会の皆さま方には、日頃より本校の教育活動に多大なるご支援ご協力を頂いており、職員を代表して改めて心よりお礼申し上げます。

ここで、近年の生徒の状況を報告させて頂きます。令和6年度は卒業生234名中、国公立大学への進学者は27名、私立大学・短期大学進学者が117名、専門学校等61名、就職6名とそれぞれの希望する道に進みました。また、在校生も目標を高く持ち、進路実現に向けて日々取り組んでおります。

部・同好会については、体育系が15、文化系が11あり、生徒達は日々練習に励んでおります。今年度も卓球、ウエイトリフティング、陸上、競技かるた、吹奏楽、軽音楽、放送等が県大会で上位入賞、九州・全国大会派遣等、目覚ましい活躍を遂げております。

また、本校には視野を広く海外に向けている生徒も多く、外務省や県教育委員会、宮古島市等が主催する国際交流事業に積極的に参加しています。今後とも、台湾姉妹校交流をはじめ、様々な団体が主催する国際交流事業への積極的な参加を奨励し、国際理解教育を推進していきたいと思います。

ご承知の通り、宮古島も少子化の影響で、児童生徒数が減少しております。また、昨今は中学校卒業時に島を離れる生徒や通信制高校に進学する生徒の増加等の理由により、島で唯一の普通高校である本校への入学者も減少傾向にあります。本校も時代の変化に対応し、教育活動の更なる充実に努めているところです。

今年度は私にとっても宮古高校3年目で、校長として最後の一年となります。日々、文武両道で勉強・部活動等に取り組む宮高生一人ひとりの夢実現・自己実現に向け、全職員一丸となって教育活動を推進してまいります。今後とも本校の教育活動に変わらぬご協力とご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げ、校長あいさつといたします。

奨学生

# 日本語と教育に向き合う

琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科4年
砂川　希歩（74期）

この度令和7年度南秀同窓会奨学生にご選定いただきました、同窓会第74期生の砂川希歩です。私は現在、琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科に所属しており、日本や琉球、東アジアの言語や文学、歴史といった文化について幅広く学んでいます。私はその中でも日本語学を専門としており、私たちが普段何気なく使っている日本語の表現や背景を改めて見つめ直すことに関心を持っています。卒業論文では「どういたしまして」という言葉が実際の会話において使用されにくいことをテーマに、その要因や、代替として使用される言葉の特徴などについて研究を進めております。

また私は、上記の主専攻に加えて日本語教育副専攻にも登録し、日本語学習者に日本語を教える困難さやその解決のための教育的工夫についても学ぶほか、高校国語科の教員免許取得にも取り組んでおり、多角的な視点から日本語と教育に向き合っています。この夏には母校、宮古高校にて教育実習を控えており、自身がお世話になったこの学校に教育者としての立場で戻れることに大きな喜びと期待を抱いております。

私はこの春ありがたく、県外の学習塾に内定をいただきました。その企業は難関校への合格率が高く、ICTの活用が先進的なことで有名です。今後は社会人として、そして教育に携わる者としても成長を重ね、将来的には自身の学びを沖縄や地元宮古島に還元していきたいです。

# 一般社団法人南秀同窓会「奨学金」概要

本事業は、母校宮古高等学校の創立50周年（昭和54年）を目前に控えた昭和53年に同窓会の主幹事業として開始されたものである。

旧制宮古中学校、宮古高等女学校の卒業生が軸となり法人組織として同窓会運営を開始された。

その中で後輩の育英事業として始まったのが南秀同窓会奨学金事業である。

活動の原資は卒業生からの寄附金であり、令和７年８月現在延べ２００名へ奨学金を給付した。

給付生は医学、経済、教育、福祉と各分野で優秀な成績を納め、各界で活躍している。

本年度も多くの応募者の個人情報等を非開示の元、理事６人で厳選な審査を実施し以下の給付生が決定した。

**具志堅　徹弥**
琉球大学国際地域創造学部３年

**砂川　希歩**
琉球大学人文社会学部４年

**近角　悠**
筑波大学情報科学類３年

**羽地　留唯斗**
琉球大学国際地域創造学部３年

給付期間　令和７年４月から令和８年３月
給付額（月３０，０００円×６ヵ月）×２回　前期・後期に分けて給付する。

宮古毎日新聞社提供

（前列左から）下地会長が砂川さんの母親、近角さんの両親に奨学金を贈った＝13日、宮古高校

## 宮高卒業生４人に奨学金
### 前期給付式で保護者へ贈る

南秀同窓会（下地信輔会長）の２０２５年度前期奨学金給付式が13日、宮古高校で行われた。給付した下地会長は「対象者は優秀な成績で受給に適していると聞いている。学業を頑張って宮古島の発展に力を貸してほしい」と期待した。式には対象者の保護者３人が出席した。

同会の奨学金は１９７８年に会の主幹事業として開始。今回、給付対象となったのは▽具志堅徹弥さん（琉大国際地域創造学部３年）▽砂川希歩さん（同人文社会学部４年）▽近角悠さん（筑波大情報学群３年）▽羽地留唯斗さん（琉大国際地域創造学部３年）の４人。

受給生代表あいさつでは、近角さんの父親の敏通さんが「大学進学後、離島と本土との教育機会や情報資源の格差を強く実感した。将来は地域における格差是正に貢献できるよう、日々励んでいく」とする悠さんのメッセージを読み上げた。

松原芳和校長は「学業に励み、社会に貢献することが同窓会への恩返しになる。充実した学校生活を祈念する」と激励した。

南秀同窓会

8月13日給付式

奨学生

# 税理士になって地域支えたい

琉球大学国際地域創造学部３年
**具志堅　徹弥**（75期）

お世話になっております。沖縄県立宮古高等学校75期生の具志堅徹弥と申します。現在、琉球大学国際地域創造学部経営プログラム３年次で会計学を専攻しています。また、学内の環境活動団体である「琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会」に所属し、共同代表を務めています。将来は故郷である宮古島で税理士として独立し、地域の企業や住民を税務面から支えたいと考えています。

宮古島は観光客数の増加と富裕層の流入が進む一方、高齢化も顕著であり、相続や不動産に強い税理士の需要が高まっていると考えます。そのため大学卒業後は、資産税分野を扱う税理士法人に就職し、相続税・固定資産税などの実務経験を積む予定です。現在は税理士試験の簿記論・財務諸表論を中心に学びつつ、日商簿記１級の学習も進め、税務の基礎である会計力の強化に努めています。

将来的には税務にとどまらず、宮古島の地元企業の経営を支えるコンサルタントとしての業務も展開し、地元企業の競争力向上に貢献したいと考えております。

また、経済的理由で進学や挑戦の機会を得られない宮古島の子どもたちを支援する奨学金財団を設立することも目指しています。宮古島への恩返しと持続的発展への貢献を胸に、学業と経験の両面で精進してまいります。

奨学生

# 教育へのIT活用に力

筑波大学情報科学類3年
近角　悠（74期）

筑波大学情報科学類3年の近角悠です。このたびは南秀同窓会奨学生に選定していただき、誠にありがとうございます。

現在は情報技術に関する専門知識の習得に加え、それらを柔軟に応用するための幅広い教養の習得にも力を入れています。3年次の実験では、深層学習と画像処理を組み合わせた課題に取り組み、理論だけでなく実装や評価にも挑戦しました。また、高校時代から取り組んでいる写真活動を通じて、子どもたちにとっての芸術への入り口となるようなワークショップや展示会の企画・運営を行うなど、課外活動にも積極的に取り組んでいます。

大学進学後の二年間で、私は離島と本土との間にある教育機会や情報資源の格差を強く実感しました。たとえば、動物園や美術館といった文化施設の不足、進学に関する情報へのアクセスの困難さ、様々な体験の機会が限られていることなど、多くの課題が挙げられます。一方で本土では交通の利便性が高く、自分の関心のある分野に自由にアクセスできたり、学校説明会やオープンキャンパスに気軽に参加できたりする環境が整っています。

こうした地理的要因から生じる格差は、特に子供たちの教育の可能性を狭めることに繋がると考えられます。そのような課題を解消する手段として、VRやMRといった現実とデジタルを融合する技術や、リモート通話や5Gといったリアルタイム通信技術は大きな可能性を持っていると考えます。教育の第一歩は、「知ること」から始まります。実際の体験が難しい場合でも、情報技術を活用することで「知る機会」を増やすことは可能であり、そのような環境づくりに貢献したいと考えています。

将来は、大学で培った知識と経験を活かし、情報技術の力を通じて、宮古島をはじめとする地域における教育格差や情報格差の是正に貢献したいと考えています。改めまして、奨学金の給付生に選定していただき、ありがとうございます。

奨学生

# 人を前向きにできる自分目指す

琉球大学3年　羽地　留唯斗（75期）

この度は、南秀同窓会の奨学生として再びご支援を賜ることとなり、心より御礼申し上げます。昨年に続いて選んで頂けたことは、私にとって日々の学びと挑戦への力強い後押しとなっています。

私は現在、琉球大学国際地域創造学部に在籍し、経営学を中心に学んでいます。学外では、実社会で役立つ知識や視点を身につけることを重視しており、その一環として国家資格である中小企業診断士の取得にも挑戦しています。この資格は、中小企業が抱える経営課題に対して理論と実践を融合した支援が求められるものであり、自らの思考力や課題解決力を磨く大きな機会となっています。

将来の目標は、「誰かの明日を前向きにする」仕事に就くことです。昨年度とは異なる進路を描いていますが、ゼミ活動や卒業研究、就職活動を通して、自分が社会にどのような価値を提供できるかを真剣に考えるようになりました。卒業研究では、中小企業におけるエンゲージメント向上をテーマに、従業員一人ひとりの活力が企業の成長につながる仕組みづくりを探求しています。これまで、中小企業診断士の勉強、卒論、アルバイト、大学の授業、就職活動と、忙しい日々の中で思うようにいかず苦しくなることもありました。しかし、ゼミの先生や尊敬する方々との対話の中で、「物事に自ら意味を見出し、主体的に取り組むこと」の大切さに気づき、それを実践することで自分自身の変化と成長を実感することができました。挑戦を重ねるごとに、「できなかったことができるようになる」事の楽しさと、自分の可能性を信じる力を得られ、日々の努力を楽しめるようになりました。

このような経験を通じて、自分の人生が活き活きとした様に、私も誰かの人生に小さな前向きさや希望を届けられる存在になりたいと強く思うようになりました。今後もこの奨学金に恥じぬよう、努力と挑戦を重ね、「誰かの人生を少しだけ前向きにできる自分」を目指して精進してまいります。

## 第7回南秀同窓会「語り継ぐ南秀魂」講演会

# 「徳を高め、善く生きる」中山氏が生き方の大問題語る

沖縄南秀同窓会提供資料

講演する中山氏

宮古高校の卒業生でつくる南秀同窓会（下地信輔会長）の第7回「語り継ぐ南秀魂」講演会が2025年1月31日、同校体育館で行われた。講師は宮高9期生で精神科医の中山勲氏（86）。「善く生きること」との演題で講演し、将来について不安を持つ生徒たちに、生き方の大問題について語り、「徳を高め、善く生きる」の選択を勧めた。優しく寄り添った語り口調に生徒たちは引き込まれ熱心に耳を傾けていた。

中山氏は平良出身の両親が台湾に移住して、38年に台湾で生まれた。父親が姓を與那覇から中山に改姓した。終戦後、46年6月に宮古に戻る。平良中、宮古高校を経て、当時の国費留学生の制度で国立徳島大学医学部に進学。大学卒業後、医師国家試験に合格し精神科医師になる。県立清和病院長、県精神保健福祉協会長などを歴任、厚生大臣表彰、県功労者表彰受賞。現在86歳になる。

自己紹介を終えると中山氏は、若い年頃には自分の将来や生活について悩んでいると思うとして、こう話した。

「出来れば競争に打ち勝って成功し、豊かな生活と社会的地位を獲得したいと思っている人もいると思う。若しもそのように思っているならば、それは正しくないと私は言いたい。豊かな生活と社会的な地位が悪いということではなく、それはあくまで目標とするべきことではなく、結果に過ぎないと言いたいのです。ですから自分が好きな仕事を選択して一生をその仕事に打ち込めばよく、生活できるだけの収入が得られれば満足した人生を送ることができると思います。安楽とか地位とか名誉とかを目指すことなく仕事に没頭すれば人格が向上します。死ぬまで目指すべき人生の目的は人格の向上であると私は考えております」。これに続けて、「人生にどう取り組むべきかの大きな問題の時、『うまく生きる』と『善く生きる』の二つの考えがあります。「うまく生きる」とは、要領よくとか上手にとか有利にとかいう意味です。「善く生きる」とは、正しくとか美しくという意味です。私は皆さんに「善く生きる」の選択を勧めたい」と述べ、これが本日の話の結論だとした。そして詳しい説明に入った。

### ソクラテスの教え

中山氏は、まず約2500年前の古代ギリシャの哲学者ソクラテスの生き方を取り上げた。それによると、当時ソフィストと呼ばれる人々がおり、報酬を取って弁論術を教えていたが、絶対的真理を否定し、真理の相対性を説いていた。彼らは詭弁を弄したし、自らを「知者」と称していた。ソクラテスは自分の無知を自覚しているため、自分のことを知者ではなく「愛知者」と呼んだ。これは、知恵（Sophia ソフィア）を愛する（philos フィロス）人という意味で、これが哲学（philosofy フィロソフィ）という言葉の始まりだという。

ソクラテスは、アテネの法廷において「青年に害悪を与え、国家公認の神々を認めない」という罪で刑死する。その経緯について語った。

ソクラテスの仲間の一人がデルフォイのアポロン神殿で、『ソクラテスより賢い者は一人もいない』という信託を受け、ソクラテスに告げる。しかし自分の無知を自覚しているソクラテスはその信託を信じることができず、それを確かめる決意をする。彼は知者として名の通っている人をアテネ中探し求め質問をしたが、知者は一人もいないことを知った。そして自分の無知を自覚している分だけ自覚のない彼等より自分の方が優れていると思い、デルフォイの信託が正しいことを知る。これが「無知の知」というソクラテスの哲学の核心だという。

法廷から、人々の無知を暴いて歩き回ることを今後はしないと約束するなら無罪にすると言われるが、それに対してソクラテスは「……（君は）評判や地位のことは気にしても、思慮や真実には気をつかわず、また自分の精神をできるだけ優れたものにすることにも気をつかわず、心配していないというのは恥ずかしくないのか、と今後も言い続けるだろう」と答える。彼はまた、『クリトン』の中で、

こう述べている。「一番大切なことは単に生きるということでなく、善く生きるということである。善く生きることと美しく生きることと正しく生きることは同じである」。

中山氏は、ソクラテスが考える「善く生きること」について、こう要約する。

「人間は自分の無知を知り、謙虚になり、日常生活のあらゆる場面で自分について厳しく吟味して行為する中で、自分の徳を可能な限り高めて行くことが人生の目的であり、これが善く生きるということである」。そして「自分も出来ればそのように生きたい」と語った。

## カントの教え

次に、18世紀のドイツ哲学者カントの道徳の研究に触れた。始めに、『道徳形而上学原論』にある論考を紹介。

「我々の住む世界においてはもとより、おそこの世界の外でも、無制限に善とみなされ得るものは、善意志のほかにはまったく考えることができない。知力、才気、判断力等ばかりでなく、一般に精神的才能と呼ばれるようなもの、或いはまた気質の特性としての勇気、果断、目的の遂行における堅忍不抜等が、いろいろな点で善いものであり、望ましいものであることは疑いない。しかしこれを使用するのは、ほかならぬ我々の意志である。……。この意志が善でないと、上記の精神的才能にせよ、或いは気質的特性にせよ、極めて悪性で有害なものになりかねないのである。善意志はあたかも宝石のようにその全価値をみずからのうちに蔵するものとして、それ自身だけで煌煌と輝くのである。そして役に立つとか、或いは効果がないなどということは、善意志の価値をいささかも増減するものではない」。

中山氏は、これを要約して、「カントは他者に対する思いやりの心（善意志）に絶対的な価値を置き、善意志に基づく行為の結果がいかなるものであっても、善意志の価値は下がらないと述べている」と強調。また、カントの「義務の概念は、常に最高善の概念を含んでいる。義務とは道徳的法則に対する尊敬の念に基づいて為すところの行為の必然性である」との説を受け止めてこう述べている。

「カントは、信念に基づき自己の不利益を顧慮することなく道徳的義務を果たすところに人間としての自由があると言っております。人間にとって最も大切なことは自由であり、自由な人間になりたいものです」と。

また、カントの人間関係の道徳の基本についての言葉、「君自身の人格ならびに他のすべての人の人格に例外なく存するところの人間性を、いつでもまたいかなる場合にも同時に目的として使用し決して単なる手段として使用してはならない」を取り上げた。その上で、中山氏は「私たちは自分の人間性を貶める言動をしてはならないし、日常の人間関係においても相手を手段として使用していないか吟味することが大切だと思います」と力説した。

## 宮沢賢治の教え

3人目にわが国の詩人・童話作家の宮沢賢治を話に上げた。「『雨ニモマケズ』という詩を書き、『銀河鉄道の夜』や『注文の多い料理店』という童話を書いた人だということは誰でも知っております。しかし彼が本当に聖人のような生き方をした人であるということを知っている人は少ないのではないのでしょうか」と説明を始めた。

そして、哲学者で法政大学の学長を務めた谷川徹三の話も取り出す。「明治以後われわれは幾多偉大な文学者たちをもちました。しかし、その人の墓の前に、本当にへりくだった心になって跪きたいという人を私は賢治以外にもたないのであります」。こう述べた谷川は数年後、賢治の故郷の花巻を訪れ、「雨ニモマケズ」の詩碑の前に額づいたという。

そして中山氏は「雨ニモマケズ」の詩を全文紹介した上で、「谷川徹三が『この詩の中に現れている賢治の願いの誠実さに私は頭を下げる』と言うように、私もこの詩の一字一句に胸を打たれます」と語った。

中山氏はこう続ける。「賢治は33歳の時、気候不順による稲作の不良を心配し、風雨の中を昼も夜も東奔西走して肋膜炎を患って病床に伏し、以後38歳で永眠するまで完全に健康に復することはありませんでした。詩の初めにあるように雨にも風にも雪にも夏の暑さにも負けない丈夫な体がどんなにか欲しかっただろうと思われます。そして賢治は採食主義者ですから一日に玄米四号と少しの野菜を食べて、自分のことは勘定に入れずに、困っている人の所へ足を運んで手助けしたいと願っていたのでしょう。そして皆からデクノボーと馬鹿にされている人間になりたいと心から願っている詩です。人々から尊敬されたいと思うのが普通だと思

われますが、賢治は人よりも下に付くことを望んでいると思われます」。「賢治はどこまでも謙虚な人だったのでしょう。人間の理想像だと私は考えます」。

賢治は1896年に岩手県稗貫郡花巻川口町に古着商と質屋を営む家の長男として生まれた。家は浄土真宗の熱心な信者だった。26歳の時、岩手県稗貫農学校教諭になったが、31歳で依願退職している。「生徒には農村に帰って立派な農民になれと教えていながら、自分は先生をして給料をもらっているのは心苦しい、口だけでなく農民と一緒に、苦しくても実際に土を掘ろう」と考えたからという。自炊をしながら近くの荒れ地を開墾して農作物を植え、トマトや白菜などを町に売りに行ったりした。「羅須地人協会」を設立し、集まった農学校や国民高等学校の卒業生、農業に熱心な老人や若い人たちに稲作や農業をはじめ、科学や芸術などの講座を開いた。そこで講義したのが自分の書いた『農民芸術概論綱要』という論文である。

その中の言葉を中山氏はいくつか抜粋する。

**「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない。」**

**「正しく強く生きるとは銀河系を自らの中に意識してこれに応じて行くことである。」**

**「まずもろともにかがやく宇宙の塵芥となりて無方の空にちらばろう。」**

**「われらに要るものは銀河をつつむ透明な意志　巨きな力と熱である。」**

**「詩人は苦痛をも享楽する。」**

**「永久の未完成これ完成である。」**

中山氏は「賢治は現実の人間社会の考え方を基本にするのではなく、心の中に大宇宙を入れて、大宇宙或いは神と言ってもいい観点から人間の生き方を考えていたと思います。だから誰かの幸福のためなら自分の命の犠牲は取るに足らないと考えていたのでしょう」と話し、次のエピソードも紹介した。

死の前の日、賢治は発熱と呼吸困難の状態であったが、それを知らない見知らぬ一人の農民が肥料について教えを請いに訪ねて来た。賢治は家族の止めるのも聞かず、着替えて玄関へ出て行き、約一時間懇切丁寧に指導したという。その年は賢治の郷里の稗貫郡は何十年に一度という豊作で、9月17日から3日間お祭りがあった。賢治はそれを心から喜び、歌を2首作ったが、それが絶筆となった。

**方十里　稗貫のみかも　稲熟れて　みまつり三日　そらはれわたる**

**病のゆゑにもくれん　いのちなり　みのりに棄てばうれしからまし**

## 「善く生きる」とは

中山氏は、最後に話のまとめをした。「皆さんお気づきのように『善く生きる』はソクラテスの言葉です。ソクラテスは『自分の無知を自覚して謙虚になり、自分をたえず吟味することで自分の徳（人格）を可能な限り高めて行くことが人生の目的であり、善く生きるということである』と言う。カントは、人間にとっての最も大切なことは善意志（思いやりの心、利他の心）であり、そこから道徳や義務の概念が生まれ、道徳や義務を実践することがすなわち自由な人間であると言う。賢治は生来の宗教的気質に科学的知識を学び、心に大宇宙を取り入れて、そこから自分の義務を自覚して行動し、自己の利益や生命については一顧だにしない聖人の如き生涯であったと言えます。」

そしてこう続けた。「しかしソクラテスや賢治のような人生を送ることは普通の人には不可能です。……話をしている私にはとても出来ません。では自分に出来ない話を何故するのかと言われそうです。それは私たちが社会生活を送る中で、心ならずも自分を抑えて社会の要請、或いは周りの要請に従わざるをえないことが数多く起こります。しかし自分に対する吟味を忘れると、大勢に無批判に従う人生になりかねないと思います。自己吟味を忘れないためにもソクラテスや賢治の人生を学ぶことが大切で、それが人格の向上につながると思います。目指すべきは生涯をかけた人格の向上、すなわち心の向上であり、それが『善く生きる』ことであると思います。

私も高齢と言われる年になり、体力や筋力は衰え、体の節々も痛み、歩くスピードは遅くなり、記憶力も低下し、多くの持病のために十種類ほどの薬を毎日飲んでおります。しかし心を美しく保ちたい、人格を可能な限り高めたいという願いは失われません。人格は賢治が言う「永久の未完成これ完成である」のとおりで、目指している途中がすでに完成だと考えております。皆さんと共に私も『善く生きること』を今後も目指していきたいと思います」。盛大な拍手を受けて講演を終わった。

## 令和６年度　一般社団法人 南秀同窓会収支決算書

| | |
|---|---|
| (1)収入合計 | ¥6,042,352 |
| (2)支出合計 | ¥4,384,812 |
| (3)差引残高 | ¥1,657,540 |

(1)収入の部　（単位:円）

| 項 | 目 | 科目 | 当初予算額 | 補　正 | 補正後予算額(A) | 決算額(B) | 増△減(B-A) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 入会金 | 454,000 | | 454,000 | 468,000 | 14,000 | 卒業生234名×2,000円 |
| 2 | 1 | 会費 | 0 | | 0 | 0 | 0 | |
| 3 | 1 | 事業収入 | 330,000 | | 330,000 | 0 | △ 330,000 | |
| 4 | 1 | 寄附金 | 1,000 | | 1,000 | 15,259 | 14,259 | 宮高26期による寄付 |
| 5 | 1 | 繰入金 | 2,160,000 | | 2,160,000 | 2,160,000 | 0 | 奨学金(3万円×12カ月)×6名(R5未計上\61+R5繰越金\3396623) |
| 6 | 1 | 繰越金 | 3,396,623 | 61 | 3,396,684 | 3,396,684 | 0 | |
| 7 | 1 | 雑収入 | 950 | | 950 | 2,409 | 1,459 | 利息(定期、普通預金) |
| 合計 | | | 6,342,573 | 61 | 6,342,634 | 6,042,352 | △ 300,221 | |

(2)支出の部　（単位:円）

| 項 | 目 | 科目 | 当初予算額 | 補正・流用 | 補正後予算額(A) | 決算額(B) | 増△減(A-B) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 事業費 | 3,364,000 | -587,000 | 2,777,000 | 2,775,720 | 1,280 | |
| | 1 | 奨学金 | 2,160,000 | 0 | 2,160,000 | 2,160,000 | 0 | 月額30,000×12カ月×6名 |
| | 2 | 印刷製本費 | 213,000 | 14,000 | 227,000 | 226,685 | 315 | 「南秀」会報誌×2回+封筒印刷 |
| | 3 | 行事費 | 0 | | 0 | 0 | 0 | |
| | 4 | 50年を祝う会経費 | 601,000 | △ 601,000 | 0 | 0 | 0 | 参加費で補ったため |
| | 5 | 学校支援費 | 324,000 | 0 | 324,000 | 323,035 | 965 | 新入生用帽子239個・学校支援費200,000円 |
| | 6 | HP維持管理費 | 66,000 | 0 | 66,000 | 66,000 | 0 | ワンスタ5,500円×12か月 |
| 2 | | 管理費 | 2,978,573 | -138,500 | 2,840,073 | 1,609,092 | 1,230,981 | |
| | 1 | 給与費 | 600,000 | | 600,000 | 600,000 | 0 | 事務局手当(月50,000円×12ヶ月) |
| | 2 | 会議費 | 10,000 | △ 9,000 | 1,000 | 759 | 241 | 総会等 |
| | 3 | 旅費 | 100,000 | △ 20,000 | 80,000 | 79,589 | 411 | 関東南秀同窓会総会出席(2泊3日) |
| | 4 | 通信運搬費 | 70,000 | △ 1,000 | 69,000 | 68,188 | 812 | 切手・電話代等 |
| | 5 | 消耗品費 | 50,000 | 11,000 | 61,000 | 60,840 | 160 | 用紙・プリンターインク代等 |
| | 6 | 接待交際費 | 5,000 | 14,000 | 19,000 | 18,918 | 82 | 沖縄南秀同窓会講師役員昼食 |
| | 7 | 賃借料 | 600,000 | △ 120,000 | 480,000 | 480,000 | 0 | 家賃(40,000×12カ月) |
| | 8 | 租税公課 | 20,000 | 0 | 20,000 | 20,000 | 0 | 法人税20,000円 |
| | 9 | 渉外費 | 120,000 | △ 38,500 | 81,500 | 81,500 | 0 | |
| | 10 | 備品購入費 | 100,000 | △ 100,000 | 0 | 0 | 0 | |
| | 11 | 宣伝広告費 | 0 | 72,000 | 72,000 | 71,500 | 500 | 奨学生募集広告 謹賀広告等 |
| | 12 | 手数料 | 0 | 128,000 | 128,000 | 127,798 | 202 | 役員変更登記手数料他 |
| 3 | 1 | 雑費 | 75,000 | △ 75,000 | 0 | 0 | 0 | |
| 4 | 1 | 予備費 | 1,228,573 | △ 1,228,573 | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | | | 6,342,573 | △ 1,954,073 | 5,617,073 | 4,384,812 | 1,232,261 | |

(3)基金の保有状況

| 基金 | | 前年末残高 | 当期積立額 | 当期取崩額 | 当期末残高 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 定期預金 | 10,000,000 | 0 | 0 | 10,000,000 | 琉球銀行宮古支店 |
| | | 35,000,000 | 0 | 0 | 35,000,000 | 琉球銀行宮古支店 |
| | | 21,000,000 | 0 | 2,160,000 | 18,840,000 | 沖縄銀行宮古支店 |
| 2 | 普通預金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 沖縄銀行宮古支店 |
| 合計 | | 66,000,000 | 0 | 2,160,000 | 63,840,000 | |

## 令和７年度　一般社団法人 南秀同窓会予算書

| | |
|---|---|
| (1)収入合計 | ¥4,619,540 |
| (2)支出合計 | ¥4,619,540 |
| (3)差引残高 | 0 |

(1)収入の部　（単位:円）

| 項 | 目 | 科目 | 令和7年度予算額(A) | 令和6年度予算(B) | 増△減(A-B) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 入会金 | 468,000 | 454,000 | 14,000 | 卒業生234名×2,000円(R6年度実績による) |
| 2 | 1 | 会費 | 1,000 | 0 | 1,000 | |
| 3 | 1 | 事業収入 | 330,000 | 330,000 | 0 | 卒業50年を祝う会のチケット売上見込額 |
| 4 | 1 | 寄附金 | 1,000 | 1,000 | 0 | |
| 5 | 1 | 繰入金 | 2,160,000 | 2,160,000 | 0 | 奨学金基金繰入 |
| 6 | 1 | 繰越金 | 1,657,540 | 3,396,623 | △ 1,739,083 | 繰越金減による(琉銀268,566+506,609+沖銀882,365) |
| 7 | 1 | 雑収入 | 2,000 | 950 | 1,050 | 利息(定期・普通預金R6年度実績) |
| 合計 | | | 4,619,540 | 6,342,573 | △ 1,723,033 | |

支出の部　（単位:円）

| 項 | 目 | 科目 | 令和7年度予算額 | 令和6年度予算(B) | 増△減(A−B) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 事業費 | 3,137,000 | 3,364,000 | △ 228,000 | |
| | 1 | 奨学金 | 2,160,000 | 2,160,000 | 0 | 月額30,000円×12ヶ月×6名+後期振込手数料 |
| | 2 | 印刷製本費 | 230,000 | 213,000 | 17,000 | 同窓会報等 |
| | 3 | 行事費 | 1,000 | 0 | 0 | |
| | 4 | 50年を祝う会経費 | 330,000 | 601,000 | △ 271,000 | R6年度チケット売上実績 |
| | 5 | 学校支援費 | 350,000 | 324,000 | 26,000 | 新入生帽子代・学校支援費等 |
| | 6 | HP維持管理費 | 66,000 | 66,000 | 0 | ホームページ更新委託業務(月額5,500円×12ヶ月) |
| 2 | | 管理費 | 1,378,000 | 1,675,000 | △ 210,000 | |
| | 1 | 給与費 | 600,000 | 600,000 | 0 | 会計手当(月50,000円×12月) |
| | 2 | 会議費 | 10,000 | 10,000 | 0 | 総会・理事会等飲み物代等 |
| | 3 | 旅費 | 80,000 | 100,000 | △ 20,000 | 関東・沖縄本島同窓会総会参加旅費等 |
| | 4 | 通信運搬費 | 70,000 | 70,000 | 0 | 切手、携帯電話代 |
| | 5 | 消耗品費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 用紙代、プリンターインク代等 |
| | 6 | 接待交際費 | 15,000 | 5,000 | 10,000 | 関東南秀同窓会講師役員接待 |
| | 7 | 賃借料 | 480,000 | 600,000 | △ 120,000 | 家賃(月額40,000×12ヵ月) |
| | 8 | 租税公課 | 20,000 | 20,000 | 0 | 法人税 |
| | 9 | 渉外費 | 40,000 | 120,000 | △ 80,000 | 宮古高行事へお祝儀・吹奏楽部演奏謝礼等 |
| | 10 | 備品購入費 | 1,000 | 100,000 | △ 99,000 | |
| | 11 | 手数料 | 10,000 | 0 | 10,000 | 後期奨学金振込手数料 |
| | 12 | 宣伝広告費 | 1,000 | 0 | 1,000 | 謹賀広告等 |
| 3 | 1 | 雑費 | 1,000 | 75,000 | △ 74,000 | |
| 4 | 1 | 予備費 | 103,540 | 1,228,573 | △ 1,125,033 | |
| 合計 | | | 4,619,540 | 6,342,573 | △ 1,723,033 | |

基金の保有状況　（単位:円）

| 基金 | | 前年末残高 | 当期積立額 | 当期取崩額 | 当期末残高 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 定期預金 | 10,000,000 | 0 | 0 | 10,000,000 | 琉球銀行宮古支店 |
| | | 35,000,000 | 0 | 0 | 35,000,000 | 琉球銀行宮古支店 |
| | | 18,840,000 | 0 | 2,160,000 | 16,680,000 | 沖縄銀行宮古支店 |
| 合計 | | 63,840,000 | 0 | 2,160,000 | 61,680,000 | |

※奨学金216万

## 令和７年度　一般社団法人 南秀同窓会　役員

| 役職 | 氏名 | 主な役割 |
|---|---|---|
| 顧問 | 安谷屋 政秀 | 前会長 |
| | 與儀 千壽子 | 〃 |
| | 仲地 清成 | |
| 会長（理事） | 下地 信輔 | 全体統括<br>事務局長<br>各行事運営 |
| 副会長（理事） | 平良 智枝子（業務執行理事） | 財務<br>奨学金制度<br>経理<br>予算・決算 |
| | 下地 悦子 | |
| 理事 | 池間 弘明 | |
| | 田場 秀樹 | |
| | 宮国 敏弘 | |
| | 上地 成人 | |
| 監事 | 棚原 紀夫 | |
| | 根間 康雄 | |
| 学校長 | 松原 芳和 | |
| 教頭 | 遠藤 美紀夫 | 学校長補佐 |
| 教諭 | 城間 俊一 | 渉外担当 |
| 事務局 | 古謝 真理子 | 庶務会計 |

## 令和７年度事業計画

| | |
|---|---|
| 4月7日(月) | 宮古高等学校入学式 |
| 4月16日(水) | 令和6年度監査 |
| 4月　日(　) | 第1回役員会・理事会(総会日程他) |
| 5月19日(月) | 令和7年度総会(宮高家庭科実習室) |
| 5月31日(土) | 第2回理事会(奨学生募集他) |
| 6月1日(日) | 令和7年度南秀同窓会奨学生募集開始(HP、マスコミお知らせのコーナー、有料広告等) |
| 6月30日(日) | 令和7年度南秀同窓会奨学生募集締切り |
| 7月12日(土) | 第3回理事会/令和7年度南秀同窓会奨学生選考会 |
| 8月1日(金) | 奨学金前期給付式(※宮高要調整) |
| 8月15日(金) | 会報誌「南秀」上半期号発行 |
| 9月1日(月) | 2学期始業式 |
| 9月13日(土) | 第5回理事会 |
| 10月11日(土) | 第6回理事会 |
| 11月8日(土) | 27期・定時制19期「卒業50年を祝う会」 |
| 12月13日(土) | 第7回理事会 卒業50年を祝う会収支報告/会報誌(案)等 |
| 12月20日(土) | 会報誌「南秀」冬号発行 |
| 12月1日(月) | 後期奨学金給付(口座振込) |
| 1月6日(火) | 3学期始業式 |
| 1月7日(火) | 第8回理事会(「語り継ぐ南秀魂」講演会等) |
| 1月23日(金) | 「語り継ぐ南秀魂講演会」(関東南秀同窓会担当) |
| 2月14日(土) | 第9回理事会 |
| 3月1日(日) | 令和7年度 宮古高等学校卒業式及び入会式 |